

南海地震対策に生活者の視点を

事前の備え編

保存版



一人ひとりが災害時をイメージし、必要な備えをしましょう。

個人・家庭に必要な準備

個人・各家庭での備蓄



各家庭に必要な物品を準備し、定期的に中身の点検をしましょう。水・食料は最低でも3日分以上は備蓄しておきましょう。

一人ひとりに必要な備蓄も忘れずに



食物アレルギーのある方、乳幼児、高齢者などは、避難所の備蓄品・支援物資では対応できない可能性もあるので、各自で備蓄しておきましょう。服用中の薬の名前や量がかかるようにお薬手帳を持っていくと便利です。

連絡手段の確保



電話は数日間通じないことがあります。家族で話し合せて、連絡手段を複数確保しておきましょう。

地域に必要な準備

避難経路・避難場所の確認



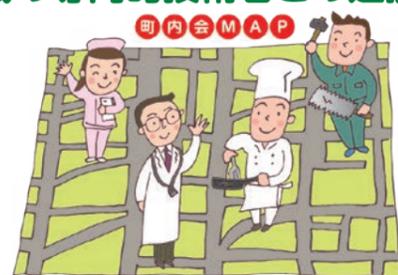
家族や地域で、避難経路・避難場所を確認しておきましょう。避難経路は、危険な場所がないか、実際に歩いてみましょう。

自主防災組織などの役員は、男女双方から



生活者の視点をもつ女性の積極的な参画を!

地域の専門的技術者との連携



医師、看護師、大工、調理師や、ボランティア経験のある方に、訓練や災害時に力を貸してもらえよう関係を築いておきましょう。

日頃から地域の連携を深め、南海地震に備えましょう!

女性の参画が特に必要な項目に  をつけています。

災害対応の学習機会をもつ



性別、年齢等に関わらず、住民が自主的に考える参画型、体験型の学習を日頃から行いましょう。

地域ぐるみで災害対応を考える



地域全体で、応急手当方法や防災倉庫にある資機材の使用法、避難所運営について学び、災害発生時をイメージしましょう。

地域住民が一体となった定期的な防災訓練の実施



昼間、夜間、休日など様々な状況を想定し、保育所、学校、企業、自主防災組織等と連携して実施しましょう。

「まずは逃げる」という意識を!



自分が逃げないことで周りの人にも危険が及ぶことを理解し、避難する意識を持ちましょう。

災害時要配慮者の避難に備える



災害時に地域で避難の手助けができるよう、日頃から声掛けをし、地域の行事や防災訓練などに一緒に参加するようにしましょう。

避難所のマニュアル作成



住民参加による運営組織を作り、各避難所に合ったマニュアルを作りましょう。

地域団体と連携した体制づくり



地域内にある企業や学校、消防団員、民生委員など地域をよく知る人とながりをもち、災害時にお互いが協力し合える関係を築いておきましょう。

地域住民同士のネットワークづくり



日頃から地域住民同士が関わり合うネットワークを築き、行事等を通して、顔の見える関係を作りましょう。

次代を担う子どもたちへの防災教育の充実



クイズ、劇を取り入れるなど、楽しみながら学べる工夫をしましょう。

南海地震対策に生活者の視点を

みんなあて
協力してやるぞね!

女性の参画が特に必要な項目に  をつけています。

避難所編



避難所での生活を安全で安心して過ごせるよう、次のような点に配慮して開設・運営を行いましょう。



避難所開設

男女別更衣室・授乳室の設置



男女が入り交じった避難所生活では、人目を気にせずに着替えをしたり、授乳をするスペースが必要です。

男女別の物干し場の設置



下着などは大勢の人目がある場所や、異性に見られる場所では干しづらいため、工夫が必要です。

乳幼児や障害者のいる家族、高齢者のための優先スペースの設置



大勢の人が寝起きする避難所では、乳幼児や障害者、高齢者への配慮が必要です。

プライバシーの確保



見知らぬ人や異性のすぐ近くで過ごしたり寝起きすることは、ストレスや不安を感じます。不安軽減のために、間仕切りなどの工夫をしましょう。

利用しやすい相談窓口の設置



不安や悩みを誰かに相談することは大切です。異性には相談しにくいこともあるため、相談員は男女双方を配置しましょう。

ペットなどの対応



ペットなどは、飼い主にとって家族同様であることを理解しつつ、動物アレルギー等配慮が必要な人もいるため、トラブル防止のためにルールづくりが必要です。

避難者名簿の作成 (個人情報の取扱いに注意!)



避難者の情報(氏名・性別・年齢・支援の必要性・情報開示の可否等)を把握することは支援を行ううえで大切です。DV等の被害を受ける恐れがある方が加害者に居所を知られることのないよう、個人情報の管理を徹底する必要があります。

安全で行きやすい 男女別トイレの設置



仮設トイレは安全面から夜間の照明を明るくし、男女別に設置しましょう(混雑しやすい女性用を多めに)。障害者等が利用できるよう多目的トイレも確保しておきましょう。

避難所運営

避難所の運営には 女性も参画



男性のみの運営では女性や多様な人の意見が反映されにくい。避難所開設時から女性も運営に参画しましょう。

避難所でのルールづくり



避難所では、男女・子ども・高齢者・若者・障害者等の多様な意見を取り入れた生活のルールづくりが必要です。

女性による女性用品 (生理用品・下着等)の要望把握 と配布



女性用品の要望は男性には伝えづらく、また配布も男性からは受け取りづらいため、女性が行いましょう。

性別や年齢等により役割を 固定化しない



食事作り・清掃・運営リーダー等の活動は、性別にかかわらず分担し、負担が偏らないようにしましょう。

手洗い場の設置や、消毒剤 の配備



感染症予防のため、トイレの後や食事の前に手洗いや手指消毒ができるよう、環境整備を行う必要があります。

巡回警備で、安全・安心な 避難所に



非常時には、DVや暴力など様々な問題が起こることが報告されています。安全で安心して過ごせるよう巡回警備が必要です。